

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485番地 - 1		
自己評価作成日	平成22年6月21日	評価結果確定日	平成22年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との交流の機会を多く持ち、老人会をはじめ区長・民生委員との関わり強くし、地域に向けた活動に取り組んでいる。又ボランティアの受け入れも積極的に行っている。入居者様の個別の対応に取り組むことでその人らしい充実した毎日の生活を送っていただけるよう努めている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院が地域高齢者医療に携わってきた経緯もあり、地域の介護予防教室への講師派遣等、法人全体で地域交流が図られている事業所である。本年度は利用者の高齢化や重度化に伴う状況の変化により、地域住民の調理ボランティアの受け入れや職員配置の増員等、個別支援や要介護度の高い利用者への特別支援の充実をはかった。中でも、重篤と診断された利用者を、家族と協力して支援した結果、現在は自力歩行できるまで回復した事例等は、人間の生命力や家族との絆、チームワークの素晴らしさを再認識させられた。また、昨年度より古賀市が主催する連絡協議会に参加する等、地域の事業所と連携する取組みもみられた。今後とも、地域、行政を巻き込んだ支援の展開が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年7月7日		

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時唱和を行い、理念の確認や意識付けをして日々の業務に取り組んでいる。ケアプランやサービスが理念に基づき、提供できるよう努力している。	開設にあたり、職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げている。「地域とかかわりながら、利用者一人ひとりの生活の質の向上」を理念とし、唱和や確認をしながら、日々の支援を通じての実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアによる詩吟を楽しんだり、近隣保育園児の訪問や地域の中学生による職場体験などの定期的な交流の機会がある。地区の老人会へ参加し、レクリエーションや食事会を通して顔なじみになるなど地域との関わりに取り組んでいる。	地域行事への参加、ホーム行事の招待等、定期的に交流の機会を確保している。具体的には、地域ボランティア、幼稚園児の訪問、中学生の職場体験の受け入れ、地域の老人クラブ等への参加等、幅広い世代とのかかわりが見受けられた。	現在、地域介護予防教室を通じて交流のある地域高齢者を、事業所に招待する等の計画が上がっています。グループホームの認識を高め、地域密着型サービスとして、貴事業所が目指すサービス理念の浸透を図られる事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域のボランティアによる昼食作りのお手伝いや地区老人会でのレクリエーション・昼食会を通して地域の方へ理解や支援を求めている。地区の介護予防教室開催の依頼もあり、認知症についての理解を広めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、地域包括センター職員、家族、利用者などの参加で2ヶ月に一度開催し、活動状況など報告し意見を反映しサービスの向上に努めている。会議においてボランティア利用のアドバイスを頂き、現在では定期的に「福祉会」の方がボランティア(調理の手伝い)に来ていただいている。	利用者、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員等の参加で2ヶ月毎に開催している。会議では、ホーム行事や活動報告に加えて、感染対策や外部評価の報告、改善策等が協議されている。この過程を経て定期的な調理ボランティアによる支援が実現した。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に担当職員の参加があり、意見を反映している。古賀市ネットワークグループでは担当職員と連携して研修会を開催し、質の向上の取り組みを行っている。	昨年度より、古賀市が主催する地域密着型サービス事業者連絡協議会にも参加し、運営推進会議にも適宜、行政からの参加がある。日常的にも、運営面や制度などに関して、その都度相談を行い、助言や指導を受けている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体カンファレンスで勉強会を行い正しく理解をして日々のケアに取り組んでいる。中庭への出入りは自由にできるが、玄関の開放は安全面を考慮し実施できていない。(国道3号がすぐ前を走っている)施錠することでの拘束を認識し、いつでも自由に出入りができるよう配慮している。	施錠やベッド柵に限らず、スピーチロック、行動制限等について意識し、職員会議等で協議や学習する機会を確保している。ケア全般において、安易に判断する事なくプロセスを重視し、環境整備等も含めて、利用者の自由と安全を守る為の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や全体での勉強会を開催し、職員間での意識・徹底を図っている。虐待についての勉強会後振り返りのレポートを提出するなどして理解を深めるよう努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間教育計画に組み入れ全体カンファレンスにおいて定期的に学び制度の理解に努めている。	契約時に利用者及び家族に資料を配布し、概要等について説明している。また、内部研修、外部研修共に年間計画に位置付け、学習する機会を確保し、制度の周知や活用の機会に向けて取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い対応しており理解信頼が得られている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	馴染みの関係を築いており、いつでも意見や要望等を申し出ることができるよう対応している。モニタリングやケアカンファレンスなどでご家族の要望等をお聞きしたり面会時に日頃の状態等お話し、ご意見を伺っている。	契約時に苦情対応体制について説明を行うほか、面会等を利用して直接話を聞いている。意見や苦情の申し出に対しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議又は法人内の会議で検討後、回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体カンファレンスで提案の機会や、話し合いを設けたりして随時意見を吸い上げる努力をしている。	日常的な会話の中でも、意見やアイデアが言いやすい雰囲気作りに配慮している。毎月の職員会議や適宜の昼食後のミニカンファにて、意見や提案を聞き、運営に反映させている。この過程を経て、職員増員やシフト改正等についての改善事例が見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて勤務調整等を行い、向上心を持って働けるような配慮がなされている。資格取得後は給与アップや、賞与評価等で反映している。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層での採用がされており、職員一人ひとりの能力を活かせるように又職員間で上手く連携がとれるよう配慮されている。利用者とのかわりにも活かせるよう支援がされている。	職員採用については、年齢や性別、経験の有無等について制限は設けず、資格の習得についても奨励している。法人採用とし、適性や理念への共感等を考慮して配置し、三ヶ月の試用期間を経て本採用している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や高齢者の尊厳についての勉強会を行い、又法人内の研修や外部での研修に積極的に参加できるような体制ができています。虐待や拘束などについての定期的に勉強会を設け、意識や理解が深められるよう取り組んでいる。	高齢者にまつわる虐待防止や権利擁護等の勉強会に加えて、事業所連絡協議会主催で開催される研修にも人権学習を位置付け、職員が交代で参加している。また、受講報告会を実施する等、様々なテーマにおいての人権教育や啓発に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修への参加できる支援体制がある。内部研修では年間学習計画を立て毎月勉強会を行い、質の向上に取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加などして、他事業者との交流がある。市のグループホームネットワークでの勉強会に参加し日々の業務に活かせるよう取り組んでいる。年間計画に沿って、幅広い職員が参加でき、職員全体でのレベルアップが図られるような支援体制を取っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち言動を通してご本人の想いを受容し不安軽減に努めている。職員間で、意見要望等を共有し信頼関係が早期にできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりの情報をもとによりよい関係が つくれるようお話をする時間を大切にしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と御家族とのお話をする場において 状況把握に努め、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、家事などを一緒に行って いただき、社会的役割を感じていただいている。一緒に取り組むことで共通の時間や空間が持てる関係作りを大切にしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを御家族にお伝えしご家族との絆を 大切にしながらの介護が行えている。医療機関への受診も御家族と同行したり、居室で一緒に食事したり、御家族と共に本人を支えていく関係が築けている。御家族との話し合える機会を増やしながら関係を築けるような配慮も行っている		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の関わりから馴染みの関係を把握し、 故郷や家族の話などを通して馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。馴染みの人との面会ができるようご家族と情報交換を行っている。	利用者が長年続けてきた趣味活動や生活習慣を 継続できるように支援している。この過程において、新聞の購読、書道、公民館サロンの参加等の支援事例が見られた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が参加できる活動や手作業等を通して、 孤立することのないよう配慮している。利用者同士の交流が行えるよう、日々の生活に工夫を行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要となり病院への入院もありますが、 折にふれての面会や言葉かけなどを通して、これまでの関係を大切にできるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりを通して思いや意向を引きだしながら把握に努めている。困難な場合は安全・安心を基本に御家族の協力も得ながら個別に検討を行っている。	利用前の面談、ホームでの様子や日々の会話を通じて、本人の思いや意向を把握し、カンファレンスやセンター方式等に記録し共有している。思いや意向の表出が希薄な利用者に対しても、日常の会話やしぐさ等から本人の意向を汲み取り、介護計画へ反映させ支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状だけを見るのではなく、これまでの生活歴を重んじその方の思いに寄り添う事で気づきを発見しながらその方らしい暮らし方を模索している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況にあわせ、ご本人の有する力を無理なく活かせるよう、現状をしっかり把握している。申し送りや記録などを通して現状把握にも努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、担当、計画作成担当、管理者を交えてのモニタリングを実施し、意見やアイデアを出して介護計画を作成している。	毎日の申し送りや随時のケアカンファレンスにて、利用者の情報交換や支援手順の確認等を行い記録している。3ヶ月毎のモニタリング・評価・見直しを行い、心身状況に変化が生じた際もその都度、関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践の把握が行えるよう、一人ひとりのモニタリングチェック表を作成し、日々のサービスに活かしている。ケアの振り返り、それを記録し、職員間での情報共有を行って、介護計画の見直し等に役立てている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が変化した場合は、話し合う機会を設け、ご家族の意見も取り入れ職員間で検討しニーズに対応できるサービス内容やケアプランに変更して柔軟な対応に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の地域資源を活用し、歌や詩吟を楽しんでいただいたり昼食作りの手伝いに参加して頂いたりして、生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院での定期的な受診や専門医受診の際は必要に応じ御家族の希望に沿いながら同行している。又連絡を取りながら御家族と一緒にかかりつけ医の受診ができるよう支援している。	医療機関は本人、家族が選択し、かかりつけ医や専門科への受診も家族と連携して支援している。協力医療機関は、老年内科や認知症専門医も所属しており、緊急対応、受診、往診、相談や助言等、利用者の状況等に応じて柔軟に対応している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がみられた場合や、変化や気付きなどは職員間で伝達周知し、管理者には随時報告相談が行え、指示に基づく対応が出来る体制がとられている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後にご家族の相談に応じたり、医療機関との情報交換を密に行い安心して治療ができ、早期に退院できるよう関係作りを行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての対応は、モニタリングやケアカンファレンス時などに御家族に説明を行っており、事業所としての方針を検討し、職員間でも「終末期について」意見を出したり、勉強会を行い、重度化や終末期の支援ができるように取り組んでいる。	契約時に重度化や医療連携について説明、同意をとり、予めセンター方式等にて家族や本人の意向を確認している。状況変化時は、その都度関係者で話し合いの場を設け、本人・家族の意向を確認しながら方針を共有し、医療、事業所、家族の連携のもと支援している。	重篤な利用者への支援を通じて、意志の力や生きる意欲、チームワーク、家族の協力等の重要性を再認識すべく貴重な体験をされた事と思われます。今後の支援の展開と充実に向けての取組みを大いに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生マニュアルを熟知し対応している。色々なパターンを想定するなどして、訓練を定期的に行いながら実践力を身に付けていきたい。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行って、消防士よりアドバイスなど頂き安全な避難方法を身につけられるよう努めている。全職員が身につけられるよう訓練していきたい。	年2回の消防署の指導による防災訓練を、併設する母体病院やショートステイ施設と協力しながら実施している。また、事業所内でも夜間想定訓練を実施し、運営推進会議時には非常災害時の地域との協力体制について協議する等の取組みがある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	拘束や虐待について人権学習で学び、日々接遇について唱和も行っている。人権に対する意識を高め人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した適切な言葉かけや対応を行っている。	個人情報保護についての勉強会等で意識向上を図り、個人記録等も事務所での一括管理や漏洩の防止に努めるなどの取組みがある。また、利用者への尊厳やプライバシーについて、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりを通して本人の思いや訴えに寄り添いながら随時適切な言葉かけや促しを行い自己決定できるよう働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活暦や希望の把握に努め、一人ひとりのペースを大切にして、希望に添いながら、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで着ていただいたり、お化粧をされる方にはさり気ない支援を行い、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が中心となって食事の準備はしているが、下準備のお手伝いや、味見、つぎ分と一緒にいる。一人ひとりの好みや食事形態に配慮して、職員とテーブルを囲みながら安全に楽しく食事ができるよう支援している。	地域ボランティア、職員、利用者が協力して準備、調理、後片付け等を実施している。調査当日は、海老天婦羅やゴーヤのかき揚げ等、季節感あふれる献立を職員、利用者共に味わっておられた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じた形態での食事を提供しており、チェック表に水分食事摂取量の記録を残し摂取量の把握に努めている。メニューについては、母体施設の管理栄養士にバランスの取れた献立を考えてもらっている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じ、付き添いや声かけをしたり、仕上げの手助けも兼ねた口腔ケアを行っている。義歯の方には、毎週ポリドントの義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、状況を見極め早めの声かけ誘導を行い、排泄の失敗がないように配慮している。排泄用品も日中・夜間など状況に応じた使い分けを行い、極力トイレでの排泄が行えるように排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握しながら、支援手順書作成し、可能な限り自立に向けて個別支援している。この過程を経て、使い捨て紙パンツから布パンツへの改善や、失禁の回避等の自立事例が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士によるバランスのとれた食事提供を行い、排便困難な方には下剤だけに頼らず水分摂取や歩行や体操などを働きかけている。排泄チェック表に基づき排泄の状況を把握して対応している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日午前・午後と入浴できるよう対応している。一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴していただけるよう支援している。拒否がある場合は時間をおき、職員交代を試みながら、気持ちよく入浴を楽しめるよう配慮行っている。	入浴の準備を行い、個別に支援している。あまり入浴を好まれない方でも、隔日での入浴をすすめ、タイミングを見計らった声かけや、シャワー浴、清拭等により定期的な清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、休息の時間を作り居室で短時間休んでいただいたりしている。日中適度の活動を促しながら夜間安心して眠れるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握し、変更時や追加処方時は確実な申し送りを行って事故防止に努めている。状態の変化を見逃さないよう様子観察し、異常があった場合には、随時管理者等へ報告して対応している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、食事の配膳を手伝って頂いたり、できる事や生活歴を把握し、張り合いが持てるような役割を担っていただいている。利用者の能力を活かし花を生けたり縫い物や書道・学習療法など楽しみながら行えるよう一人ひとりに個別に支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って中庭を散歩して花や木を眺めたり、施設内でのお花見や催事・ピアノコンサートに出かけている。母体病院での毎日のリハビリや歯科受診も行っている。食事会や個別での外出なども計画して支援に努めている。	花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩やドライブ等、家族とも連携しながら対応している。また、敷地内の散歩道を整備し、母体病院でもピアノコンサート等を開催し、気軽に気分転換が図れるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で、ご本人の必要物品などが購入できるよう配慮しているが、ご家族の判断でご自分で少額を所持管理されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話できるよう対応できている。遠方のご家族より電話を頂くこともある。今後は、面会が頻回に行えない方は電話をかけたりの支援をし、手紙のやり取りができるよう取り組んでいきたい。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽をかけ、静かにゆっくりくつろげる様なリビングや空間を提供している。家具の配置の工夫やリビングより中庭のお花が楽しめるような環境づくりにも努めている。調理している様子が見れたり、匂いなどの生活観を感じながら過ごしていただけるようしている。	外観、内装ともに落ち着いた色調の木造で、自然で和やかな雰囲気空間となっている。天井も高く、中庭に面したリビングは天窓からふりそそぐやわらかな陽で明るく温かい印象を受ける。ソファや畳スペースもあり、ゆっくり、くつろげるように工夫されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりとソファアでくつろぎテレビをみたり、利用者同士で食卓を囲み思い出話に花が咲くこともよくみられる。新聞を読んだり読書や書道に取り組んだり、キーボードを演奏したりと思い思いに過ごせる居場所を提供している。利用者間の関わりで不快感を与えないよう対応している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの使い慣れた家具などが置かれている。身体状況に合わせて御家族と相談しながら配置換えを行い安全面にも配慮した対応を行っている。ご自宅で育てた花を飾ったりして居心地よく過ごせるよう配慮している。	格子戸開きが旅館の部屋を思わせる居室である。床、ベッド、クローゼットも落ち着いた色調で統一感がある。安全にも留意すると同時に、家族の写真や馴染みの調度品等を配置し、利用者それぞれの「らしさ」が伺える居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	程よい空間を取り入れ、家具の配置を工夫し、移動に危険のないよう環境づくりをしている。廊下には手摺を設け居室やトイレ・浴室への行き来が安全にできる。歩行器を使用して廊下での歩行訓練も行っている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			